

福岡・小倉城跡こくらじょう

- 1 所在地 福岡県北九州市小倉北区内
- 2 調査期間 一九九八年(平10) 九月～二〇〇一年七月
- 3 発掘機関 (財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室
- 4 調査担当者 山手誠治・中村利至久・川上秀秋・梅崎恵司
- 5 遺跡の種類 城郭跡・軍事施設跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～近現代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(小倉)

小倉城は、中世後半から近世までの城郭で、北流する紫川と板櫃川に挟まれた河口に位置する。紫川の西岸の木町台地に西郭が、東岸に東郭が築かれ、広さは、東西約二km南北約一・五km。慶長七年(一六〇二)以降の城主は細川氏、寛永九年(一六三二)以降は小笠原氏である。

今回の調査地は、本丸南側約二五〇mの代米御蔵跡と御普請所跡である。検出

した遺構は、門米蔵、排水溝、井戸、土塁、石垣、堀、櫓などである。

木簡は、代米御蔵の堀から出土した。堀は一八七五年以降のものである。時期は文献を基礎に絵図なども参考にしながら、出土した肥前陶磁器の年代幅により決定した。編年は大橋康二氏による。

8 木簡の釈文・内容

代米御蔵跡

(1) ・「小倉歩兵第十四聯隊御中」

・「富高村役場」

171×38×5 011

(2) ・「朝倉郡久喜宮村役場出

小倉歩兵第十四聯隊

御中行」

・「大連

看護卒 高倉□四郎

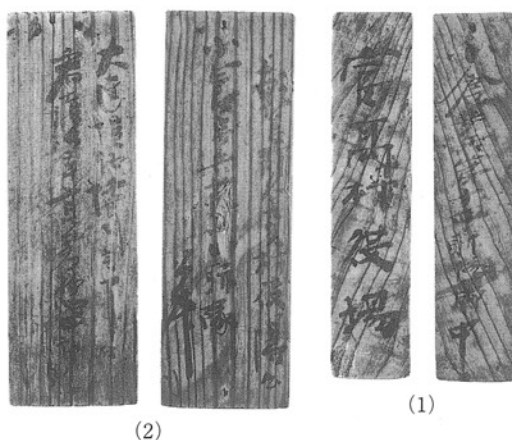
182×60×10 011

9 関係文献

なお、釈文は北九州市立自然史・歴史博物館の永尾正剛氏による。

(財)北九州市芸術文化振興財団『小倉城代米御蔵Ⅳ』(北九州市埋蔵文化財調査報告書三二三、二〇〇四年)

(梅崎恵司・中村利至久)



福岡・大門遺跡^{だいもん}

- 1 所在地 福岡県北九州市小倉北区大門二丁目
- 2 調査期間 二〇〇四年(平16)六月～七月
- 3 発掘機関 (財)北九州市芸術文化振興財団
- 4 調査担当者 山口信義・山手誠治
- 5 遺跡の種類 町屋跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代～明治時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(小倉)

大門遺跡は、小倉城二ノ丸の北側に堀を隔てた町屋の埋立造成地にあたる。今回の調査は地方主要道の拡幅工事に伴うもので、調査区の北端は長崎街道筋と大門跡に接する。調査の結果、室町と大門町との間を南北に通る堀と石垣を検出した。石垣は上部が削平されており、高さ3m分のみが残存していた。